東三鷹学園

様式6	平成29年度　東三鷹学園の評価・検証　結果報告
検証項目	**（1）　人間力・社会力の育成** ○他者との適切な関係を構築する力の育成　○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成　○その他
目標	1　他者との適切な関係を作る力 2　他者とともに自己実現を図る力 3　地域貢献する力
取組	1　小・小学校、小・中学校の交流活動を推進して、人間関係を深める。 2－1　キャリア・アントレ教育を推進する。 2－2　TEH（学園生徒会・児童会）を推進し、学園の自治意識を育む。 3　地域行事のボランティア活動等を通して、児童・生徒の心と体の健康づくりを推進する。

成果	課題と改善方策
・1．小・中の交流活動では、昨年度のふれあい活動は中2で実施したが、今年度は中1、2中で実施した。小学校の運動会への中学生ボランティア参加、小6の中学校体験・部活動体験、中3と小4の音楽交流を実施した。小・小の交流では、小5の交流活動、小6の合同自然教室や水泳記録会を実施した。活動が定着し、学園の児童・生徒の人間関係を深めてめている。 2－1．地域の特性と3校の特色を生かして、キャリア・アントレ教育を推進した。 2－2．3校の児童会・生徒会で定期的に会議を開き、あいさつ運動や人権を大切にする活動について話し合い、実践した。児童・生徒の主体的な活動として進めることができた。 3．小学校では地域行事への積極的な参加、中学校では地域行事や小学校の運動会等へボランティアとしての参加を推進した。吹奏楽部、ジュニアバンド、ダンスクラブが地域行事へ参加した。	1．小・小、小・中の交流活動は定着しているが、より児童・生徒の人間関係を深めていくために改善していく必要がある。そのために、各担当が活動毎に評価し、効果を検証し改善に繋げる。 2－1．小・中で系統的なキャリア・アントレ教育を推進し、さらに内容の充実を図ることが課題である。3校の取組の情報交換し、さらに系統的で充実した内容へ改善を図っていく。 2－2．児童・生徒の主体的な活動をさらに推進し、学園の自治意識をさらに高めていくことが課題である。そのために、担当教員の綿密な連携が必要である。 3．児童・生徒の地域の一員である意識をさらに高めていくことが課題である。小学校では、地域行事への参加を促進し、中学校では、ボランティアへの積極的な参加を促進していく。

検証項目	**（2）　学校運営について** ○小・中一貫教育校の学園組織の活性化　○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化　○その他
目標	1　教員間、学校間の交流を円滑に推進する。　　2　三鷹市教育研究協力校の成果と課題を検証する。
取組	1　各委員会ごとに、学園のマニフェストの実現のために具体的な取り組みを進める。 2　研究協力校として「ユニバーサルデザイン（UD）を活用した指導方法の工夫と環境整備」を進め、研究発表会を実施する。

成果	課題と改善方策
1．3校の教員による学園会議や学園運営委員会を活用して、マニュフェストの実現に向けて、3校の教職員の意識を高めていった。また、教務・生活指導等の6委員会が中心となり、具体的な教育活動に繋がるようにしていった。コーディネーターが学園教育課程、カリキュラム、乗り入れ授業、交流活動、学園・学校評価等を行い、学園運営の中心となり、教員間の共通理解を図った。 2．昨年度、研究協力校としての成果を生かして、学園研究を実施した。研究主題を「学力・人間力・社会力をはぐくむ小・中一貫教育～主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」として、ユニバーサルデザインの視点を大切にしながら、新学習指導要領の主旨に沿った授業改善を推進した。3校教員の連携・協力する姿勢が高まり、学園の一体感が継続して高まっている。	1．マニュフェストに対する教員の取組姿勢には温度差が大きい。全教員のマニュフェスト実現に向けての意識をさらに高め、各学級・学年の活動より具体的な取組に繋げていくことが課題である。そのためには、マニュフェストへの共通認識がもてるように、学園会議や各委員会組織を機能的に活用し、具体的な活動や取組に繋げていく。 2．ユニバーサルデザインの視点を大切にしつつ、新学習指導要領を基盤として、各教科の授業改善をさらに推進していく必要がある。今年度の研究をさらに深め、「三鷹市小・中一貫カリキュラム（暫定版）」に沿って、主体的・対話的で深い学びに繋がる小・中の系統的指導ができるよう授業研究を進めていく。

検証項目	（3）　小・中一貫教育校としての教育活動
	○小・中学校間相互乗り入れ授業　○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況　○その他
目標	1　UDを活用した教育の推進 2　相互乗り入れ授業の充実 3　体力の向上
取組	1　小・中学校の教員の授業研究会を実施し、授業の質的改善に努める。 2　小・中学校間の相互乗り入れ授業を推進する。（数学・体育） 3　9年間を通した体力づくりを推進する。"

成果	課題と改善方策
1．学園合同研究として、「学力・人間力・社会力をはぐくむ小・中一貫教育」を研究主題とし、学校における質の高い学びを実現し、児童・生徒が資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにするため「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、授業改善に取り組んできた。新学習指導要領の内容を熟議しながら各教員が授業力の向上を図ることができた。 2．相互乗り入れ授業の計画に対する達成率は、9割強であったが、小学校から中学校への乗り入れは中1の数学、中学校から小学校への乗り入れは体育で実施できた。算数・数学、そして体育・保健体育での系統的な指導に繋がるとともに、教員にとっても指導方法の交流により授業力の向上を図ることができた。 3．体力テストの結果から、学園や各校の課題改善に向けた具体的な取り組みを行うことができた。また、中学校から小学校への乗り入れ指導を体育で実施し、専門的な技能の定着を図ることができた。	1．次年度から「特別の教科 道徳」の本格実施となる。今年度は、各校1本、年間3本の研究授業を行い、指導の在り方について研修を深めたが、評価方法・内容についての熟議には至らなかった。教材の選定と年間指導計画の作成、評価について計画をたて、実践を通して精選していく。 2．小学校5・6年生の「外国語活動」の教科化に伴う移行措置期間で時数増と指導内容の精選が図られる。小学校5・6年生においては4技能指導も行う。中学校への指導の円滑な接続を図るために英語の相互乗り入れを実施したい。そのために中学校の担当教員の持ち時間割の見直しを行い、負担感を解消する必要がある。 3．本学園の児童・生徒の課題を分析した取り組みを実施しているが、さらに9年間を見通した系統性な取り組みを実践していく。

検証項目		（4）　児童・生徒の学力・健全育成
		○　児童・生徒の学習意欲　　○　各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○　小学校と中学校の評価の一貫性　　○　不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援
目標	学力	1　基礎学力の定着　　2　教員の指導力の向上　　3　家庭学習の充実
	健全	1　人権と言葉を大切にした指導の推進　　2　情報モラル教育の推進
取組	学力	1　確かな学力を一人ひとりに定着するために、個に応じた指導の徹底、ＩＣＴ機器の積極的な活用、補充授業、学園としてのコンテスト等を実施する。 2　児童・生徒に年2回の授業アンケートを実施し、教員の指導力向上につなげる。 3　家庭と協働して、家庭学習を推進する。
	健全	1　いじめ・体罰0を継続する。 2　学園としてあいさつ運動を推進する。 3　学園として規範意識の向上を目ざす。 4　地域・家庭・学校が協働して、情報モラル教育を推進する。

成果	課題と改善方策
学力 1．授業や教室環境、学習規律の徹底を通して、児童・生徒にとって分かりやすい授業が進んでいる。基礎学力の定着をねらいとした、中学校でのＪEM（国・英・数）と小学校でのＪM（国・数）コンテストが継続的に実施できるようになった。 2．生徒による評価である「授業が分かりやすい」では、肯定的評価が9割弱になり、「学習したことが身についている」の項目は8割を超え、昨年度と同様に成果を得た。 3．学園スタンダードの配布方法の改善により、保護者への意識を高めることができた。	**学力** 1．ＩＣＴの性能や数量の不足はあるが、活用方法の工夫をより進めていく必要がある。ＩＣＴ活用の実践を公開し、指導方法の共有化を進め改善を行う。基礎学力の定着をねらいとするモチベーションを高める課題提示の方法やコンテストの問題を見直し精査を行う。 2．学力や努力が教員から認められているという有用感が8割に達していない。自己有用感を高める言葉がけやデータの示し方など、フィードバックを改善していく。 3．周知は進んだが、活用に関しては不足している。学校と家庭の共通のツールとしての位置づけを明確にし、相互の連携の中で具体的に活用していく。普段からの学習指導場面で、意識づけを行う。
健全育成 1. いじめアンケートや生活のスタンダード、日々の指導を通して児童・生徒のいじめを発見・防止することができている。また、スクールカウンセラーの活用により、悩みや問題に適切に対応している。 2. あいさつ運動期間や日々の指導を通して、9割の児童・生徒があいさつの積極的な実行を自覚している。 3. 生徒・児童の時間を守る、忘れ物をしない、きまりを守るなどの生活習慣が身につけている。また、相手に応じた言葉づかいをする意識を高く持っている。 4. 最新の携帯・スマホ・PCの現状を学び、情報リテラシーの向上に努めることができた。	**健全育成** 1. いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は7割程度に止まった。地域・家庭とより連携をし、指導の充実と取り組みに対する理解を進めていく。 2. あいさつに関して保護者の肯定的評価が8割に達していいない。学校での取り組み成果の共有とともに、家庭でのあいさつのあり方にもより意識を持ち協力して行う必要がる。 3. 学園スタンダードとリンクさせた意識が低調である。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードを共通のツールとした積極的な活用をしていく。 4. テクノロジーの進歩が速く、対応が後手にまわっている。苦手意識を捨て、児童・生徒と同等以上のスキルを追求していく。

検証項目	（5）コミュニティ・スクールの運営
	○ コミュニティ・スクール委員会の組織・運営　○ 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ○ 学校と保護者、地域住民との連携・交流　○ その他
目標	1　東三鷹学園のスタンダードの充実 2　サポート隊の充実 3　ＣＳ委員会の活動のＰＲ"
取組	1　東三鷹学園スタンダードの活用・充実を図る。取り組みについて熟議を実施し、次年度に改定につなげていく。 2　サポート隊事務局を第六中学校に設置する。 3　カラー版広報誌、ＨＰ等を活用する。

成果	課題と改善方策
1．東三鷹学園スタンダードは、ＣＳ委員会と連携して保護者へ啓発し、全教員の理解を深めながら全学級で実施した。年度当初の保護者会では、ＣＳ委員が保護者への説明を行った。また、保護者との熟議に加え、ＣＳ委員と教員の熟議を行い、共通認識の上での実施を目指した。 2．小学校でのサポート隊の活用は、定着してきている。中学校では、生徒会でもサポート隊の活用方法について話し合い、具体的な検討を進めることができた。 3．コミュニティ・スクールガイド、学園スタンダード、コミュニティ・スクールだより（1～3号）を作成し、保護者・地域に配布してた。コミュニティ・スクール委員会の活動を、広く周知することができた。	1．学園・学校評価での東三鷹学園スタンダードに対する保護者の肯定的評価は４０～５０パーセントである。活用方法や周知の方法をさらに工夫していくことが課題である。次年度は、各学級で立てる児童・生徒の目標とスタンダードの目標を同一のものにして、分かりずらさを解消していく。さらに、ＣＳ委員、教職員、保護者の共通理解を深めていく。 2．中学校の実態にあったサポート隊の活用、事務局の設置が課題である。現在、具体的で前向きな検討になってるので、次年度は実際の活動に繋げる。 3．保護者のコミュニティ・スクール委員会への理解は、十分とは言えない。広報活動をさらに充実し、保護者・地域の理解を深めていく。ＨＰの活用について十分に検討できなかった。次年度は、さらに活用できるようにする。

平成29年度　東三鷹学園の評価・検証結果のまとめ	
（1）から（5）の検証結果を踏まえて	1　「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	・学園研究において、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を推進した。新学習指導要領の内容を小・中の教員で協議し、授業力向上を図りながら、小・中一貫教育を推進することができた。 ・中学校でのＪＥＭ（国・数・英）、小学校でのＪＭ（国・算）コンテストを継続的に実施できた。授業アンケートにおいても「学習したことが身についている」の項目で、肯定的評価８割を超えている。 ・東三鷹学園スタンダードの活用を促進するために、配布方法を工夫したり、ＣＳ委員と保護者、教員との熟議を行ったりして、保護者や教員の意識を高めることができた。
	2　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	・新学指導要領に沿った授業改善をさらに推進する。「三鷹市小・中一貫カリキュラム【暫定版】」に沿って、主体的・対話的で深い学びに繋がる小・中の系統的な指導ができるように、３校の教員で授業研究を進める。 ・小学校のサポート隊の活動をさらに充実する。中学校では、実態にあったサポート隊の活動を推進する。 ・東三鷹学園スタンダードの取組をさらに継続し、効果をあげていく。
	3　「2」の重点課題を解決するための改善策
	・「三鷹市小・中一貫カリキュラム【暫定版】」の実践を通した検証を図りながら、学園研究会において新学習指導要領に沿った授業改善の実践研究を進める。そのために、学園会議の内容等をより効果的なものに工夫・改善する。 ・中学校でのサポート隊の活動が開始できるように、実態に合った活動内容や事務局のあり方を検討する。 ・東三鷹学園スタンダードの取組を継続しつつ、学校での指導と関連させながら効果的なものにしていく。